

ファミリー店

大阪万博での成功をバネに、一九七〇年代のロイヤルは、陸（自動車）、海（カーフェリー）、空（飛行機）の三つで多角的に展開した。

私の履歴書

一 匡 頭 江
いち きょう けい げん

18

なるロイヤルホスト第一号店を北九州市黒崎に開店した。その後、九州地区で積極的に出店していった。

関西地区への進出も果たした。七五年七月に大阪ガスと共同出資で「オージュー・ロイヤル」を設立。十二月には神戸市東灘区にロイヤルホスト関西一号店を開店した。

これは、万博でロイヤルが輸入した米国製の優れた厨房（ちゅうぼう）機器がきっかけだった。大阪ガスの副社長だった安田博氏（後に同社社長）が、特にコンベンションオープンに興味を持たれた。万博でのロイヤルの実績もあり、大阪ガスから依頼があったのだ。

この時代、高速道路も急ピッチで整備された。七三年十一月には関門自動車道の和布刈（わかき）パーキングエリア（福岡県）が完成し、わが社はハイウ

北九州郊外に第1号

車社会を先取り、積極展開

就航していた。そこで日本カーフェリー、関西汽船など各社と相次いで契約を交わし、最盛期には十五隻となった。設計の段階から企画に参加し、厨房や店内装のプランも、われわれが手がけた。店内の雰囲気やメニューの豊富さ、適切な価格、味の良さが受け、「動く豪華レストラン」と外食専門誌にも注目された。

「空」は、機内食、空港レストランの拡充強化に努めた。飛行機も次第に大衆化、日本人の海外渡航自由化や国内外旅行者の急増で、機内食や空港レストランも急成長した。

六八年の福岡空港ターミナルビル完成を皮切りに熊本、鹿児島、沖縄と新築された九州各地

の亀井光福岡県知事にお話すると、賛成してくれた。公園は福岡県の管理のため、ロイヤルが建物の大濠観光会館を建てて県に寄付、店舗の運営をロイヤルが県から委託される形をとった。



大阪万博の利益で福岡県に寄贈した大濠観光会館

八九年の福岡市制百周年記念福岡博覧会に皇太子殿下がお見えになるといふことで、国賓クラスのお客様を迎えられるレストランとして増築と模様替えをするよう県から依頼を受けた。中洲にあった「レストラン花の木」（旧「ロイヤル中洲本店」）をそのまま移設し、内装、調度などを再現、本格的フランス料理の店としてロイヤルの伝統を今も守り続けている。

（ロイヤル創業者取締役）